

重要無形文化財結城紬伝承事業のための絣設計図案作成

【開発の背景】

茨城県結城市と栃木県小山市を中心として生産されている結城紬は、代々技術が受け継がれている伝統的な絹織物です。その生産工程の一部である「糸つむぎ」「絣くり」「地機織り」の3工程の技術は昭和31年に国の重要無形文化財に指定されており、また平成22年にはユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

本場結城紬技術保持会では、結城紬の生産技術を維持継承する目的として「伝承者養成事業※」を実施しており、事業の委託を受けた保持会会員が各技術者の育成に取り組んでいます。

※文化庁からの補助により実施

【開発の経緯・支援内容】

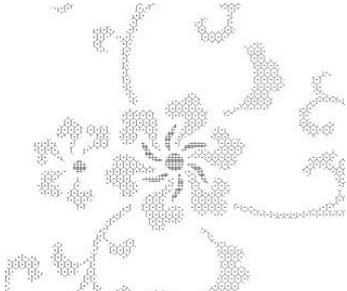
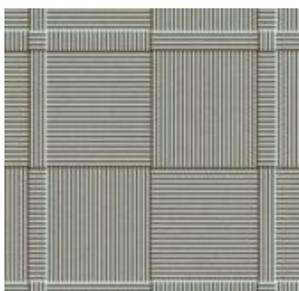
「地機織り」の製織技術者育成では、経験豊富な講師と経験の浅い織り手とが指導を交えながら同じ柄を製織し、技術を伝承していきます。

当部門では、研究開発した設計図案作成システムを用いて、本場結城紬技術保持会から提供された原案をもとに、伝承事業に必要な織り手の経験や技量を考慮した絣設計図案4点と、くずし柄設計図案2点を作成しました。

【開発した製品の紹介】

現在、本場結城紬技術保持会では、今回作成した絣・くずし柄設計図案（表1）を利用し、「地機織り」の技術者育成に取り組んでいます。なお、この事業によって織られた反物は、本場結城紬技術保持会の事業成果報告や産地内催事で展示される予定です。

表1 作成した絣設計図案例

設計図案			
種類	160 飛び 亀甲・十の字	100 細工 亀甲・格子	くずし柄

※表内の設計図案については、一部抜粋・部分拡大図

基礎となった事業

平成 29 年度 オンリーワン技術開発支援事業（受託研究）

現在の担当部門

紬技術部門

部門長

篠塚 雅子

TEL:0296-33-4154

主任研究員

中野 睦子